

## 選択する学びで思考を深める

学力向上検討委員会による公開授業では、「伊那中学校公開」の国語の授業に参加し、参加された先生方とともに学びを深めました。

今回の授業「モアイは語る―地球の未来―」では、ユニバーサルデザイン（UD）の考え方を全面的に取り入れ、生徒自身が学習内容や方法、進め方などを選ぶ授業設計が採用されました。この授業のねらいは、筆者の主張や論理の展開を読み取り、それに対する自分の考えを整理して文章にまとめる力を育てることです。

UDの支援では、生徒一人ひとりの多様な学び方を大切にしています。まず、教師が単元の課題「筆者に向けて、自分の意見を述べよう」を提示することで、学習の見通しを持てるようにする「A支援」が行われます。次に、生徒が意見を述べる際の観点（論理の展開、筆者の主張、図表の使い

方など）を決めた後、「B支援」としてスクールタクトや黒板を使い、仲間の選択を見える化することで、話し合う相手を見つけやすくします。

さらに「C支援」では、生徒が自分の意見を整理する際に、個人・ペア・グループなどの活動形態や、これまで使ってきたマッピング、フィッシュボーン、PMIチャート、クラゲチャートなどの思考ツールの中から、自分に合ったものを選ぶようになっています。最後に教師は、「同じ観点でも異なる根拠を持つ生徒どうし」を意図的につなげる「D支援」を行い、生徒の「読みの更新」を促します。

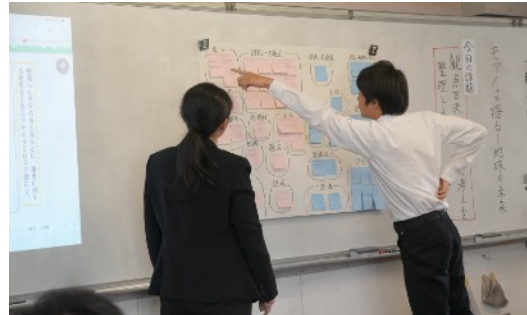
こうした支援を通して、生徒は自分のペースで学びを深め、最終的には300字～400字程度の文章に自分の意見をまとめていきます。



必要に応じて仲間や先生に意見を求め考えを深める



仲間の選択を参照しながら自分の意見をまとめていく



仲間がどの観点を選んだか参照できる支援（黒板・スクールタクト）



仲間と意見を交わしながら自分の考えを深めていく

## 授業者と語る会（伊那中公開）



授業の公開終了後には「授業者と語る会」が行われました。その中で参加者からは、生徒が教材（特に著者の主張など）をどのように理解し、自分の意見や感想を文章として表現したかについて、意見が交わされました。特に、生徒が内容への満足・不満をどのように選んだか、ユニバーサルデザインの観点からの指導のあり方、そして生徒の学習過程（特に文章作成で悩む生徒）への考察が話し合われていました。

## 1. 授業における情報提示とユニバーサルデザインのバランス

・授業者（先生）は、生徒が進行状況や学習の見通しを持って進められるように様々なことを示したものの、「スクールタクト」で色々表示しすぎてしまったと感じていました。UDの観点から情報提示を行う際、情報の量が生徒にとって過剰にならないよう配慮の必要性が示唆されました。

・生徒が「何を書いたらいいんだろう」「自分の考えて何なんだろう」と迷い、手が止まってしまうケースが少なくなかったことに対し、今回は、一番最初に「自分がどう思ったか」を土台とすることで、生徒が書き始められるきっかけを作るという支援策が取られたようです。

## 2. 教材（説論文）の構造と生徒の理解

・教材が「事実があって主張が最後にちょっとある」という論の展開を持つものであり、A君は、手元でたくさん書き込みをし、その後に短い主張があるという点に気づいている様子でした。これは、論の展開を深く味わってほしいという授業者の意図が、A君に届いていたことを示しています。

## 3. 個別支援とピアサポート（情報保障）

・特別支援に関わっている参加者からは、授業者が「ユニバーサルデザインの観点」から考えられていて素晴らしいと、高く評価されていました。

・Bさんは、頭の中に書こうと思っていることはあるのに、文章ができないという困難を抱えていました。Bさんは先生の書いた文章の構成を何度も見直したり、悩む時間があつりましたが、最終的に「次回は仲間から意見を聞いてみたい」と自己を振り返り、学び方を自分で深めていました。

・授業者は以前、生徒同士が文章を参照しながら書くことを許可していましたが、内容が「同じ方に寄ってしまう」という問題があったため、今回はスクールタクトの共同閲覧の一部を制限しました。しかし、困難を抱える生徒にとっての「手がかり」や情報保障の重要性が示され、必要であれば、生徒が「自分から声をかけに行く」という形で、個別的なピアサポートへとつなげていく必要性が示唆されました。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

伊那中学校 宮原 里都子 先生の授業と語る会の様子を推進センターでまとめさせていただきました